

岡山県立

博物館だより

68号

- 館長室より …………… ②
- 博物館 NEWS …………… ③
- 企画展を終えて … ④⑤
- 学芸員ノート …………… ⑥
- 教育普及事業 …………… ⑦
- INFORMATION …………… ⑧



〈歴史体験〉よろいと小袖を着てみよう！（5月5日）



〈企画展より〉備前焼 緋襷大皿



〈企画展より〉土井遺跡出土埴輪

岡山カルチャーゾーンのミュージアムタウン構想

岡山市の後楽園を中心として、岡山城や県立美術館、夢二郷土美術館など公私の12の文化施設が集中する地域を「岡山カルチャーゾーン」と呼んでいます。各施設が、お互いの連携を深め、活性化を図ろうと、「岡山カルチャーゾーン連絡協議会」が、20年前に設立されました。現在は県立博物館に事務局が置かれ、私が会長をしています。県立博物館では、この仕事の占めるウエイトは大きく、各施設との連絡調整や各種団体の要請の窓口としての業務などを行っています。

協議会では、日頃から定期的に会議を開催し、各施設の割引券の発行、周遊マップやパンフレットの作成など、積極的に取り組んできましたが、「各施設間の連携がとれてない」「全国に誇れる資産を生かし切れてない」などの指摘がまだまだあります。

岡山カルチャーゾーンでは、今秋、岡山県で全国生涯学習フェスティバル「まなびピア岡山」が開催されることに合わせ、その記念事業として、各施設が「吉備の国 歴史と文化の散歩道」のテーマで、独自に岡山ゆかりの展覧会や音楽会を実施します。県立博物館では、平成の大修理が行われている吉備津神社を取り上げ、その歴史と文化財を総合的に紹介することになっています。

また、各施設が協働で記念フォーラムの開催や生涯学習フェスティバル見本市への出展、カルチャーゾーン共通の周遊マップの作成などを行います。特に、子ども向けには一工夫した周遊マップを作成しています。小中学生がマップを手にスタンプラリーでこの地域を楽しみながら散策し、それぞれの文化施設に早くからなじんでもらうとともに、本物を見る目を養ってもらおうと思っています。

今回の試みは、設置者が異なる各施設が連携し、岡山県の歴史と文化の情報発信を行うとともに、生涯学習の拠点施設として、この地域の賑わいを創出し、地域振興への貢献を図ろうと計画しました。

協議会では、このような取り組みを文化庁の「芸術拠点形成事業（ミュージアムタウン構想）」に事業申請しました。全国で59件の応募があり、51事業が採択されました。岡山県では唯一この事業が採択され、運営経費の一部が助成されることになります。

「ミュージアムタウン構想」の目的は、美術館や博物館が地域に開かれ、常に人々が集う魅力ある場を構築することです。このたびの協議会が計画したカルチャーゾーンの文化資源を活用したまちづくりの取り組みが、全国的にもモデルとなる事業として高く評価されたものと自負しています。

今秋の「まなびピア岡山」の開催を契機に、各施設が地域に開かれ、より一層連携し、協働で事業を実施することによって、この地域のまちづくりにも貢献していきたいと考えています。（館長 芦田和正）



県立博物館・岡山後楽園に続く道

「小袖を着てみよう!」を始めました

国際博物館の日(5月18日)を記念して、平成16年度から、こどもの日に「本物のよろいを着てみよう!」を開催してきましたが、本年度から新たに「(財)岡山県教育弘済会」からの助成を受け、女子向けに「小袖」を加えました。

小袖は、色・柄・大きさなどが違う三種類を揃え、当日は10人の小中学生が歴史を体感するとともに、御家族と記念撮影等も行い、十分に楽しんでいただきました。



「高校生の入館料無料化」が実現

本館では、平成14年4月から「完全学校週五日制」に対応し、小中学生の入館料を無料にしています。このたび、学校との連携強化を図り、さらに一層の学校教育支援を行うため、関係部局と協議を重ね、学校教育活動の一環として入館する小中学生及び高校生を対象に、平常展・特別展ともに入館料を無料にしました。

これにより、児童生徒が博物館資料に早くから親しむ機会が増え、教育活動の一貫として博物館の活用が広がることを願っています。
(副館長 柳瀬昭彦)



資料紹介

ほんれんじ 本蓮寺本堂 古い壁の落書き

この資料は、瀬戸内市牛窓町にある法華宗の古刹、本蓮寺本堂にあった古い壁の一部です。本蓮寺の本堂は明応元年(1492)に再建されたもので、国の重要文化財に指定されています。昭和33年(1958)に修理工事が行われた際に発見されたものです。この壁には慶長年間(1596～1615)の年紀を記した落書きが見られます。九州方面から伊勢や京都に向かう際に牛窓に立ち寄り、到着した日時などについて記載しているようです。潮待ち、風待ちのために、本蓮寺の本堂で一夜を明かした人々が書いたものと考えられ、牛窓が潮待ちの港として繁栄をしていたことを示す重要な資料といえます。「はじめて一見つかまつり候、あら見事なり」とあり、景色の美しさに感動した様子が伝わってきます。

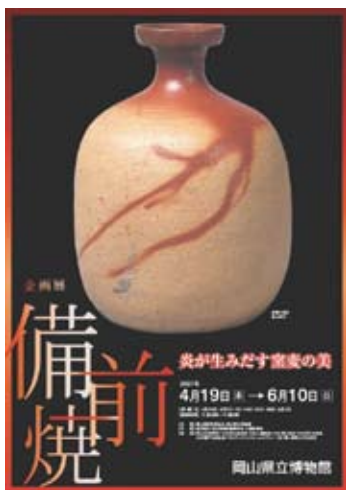
このたび本蓮寺様の御厚意により、江戸時代初期から幕末にかけての落書きのある5点の壁の寄贈を受け、博物館資料として保存・研究・公開することになりました。2月の特別展「朝鮮通信使と岡山」では、通信使を岡山藩が接待した港として牛窓と本蓮寺を紹介しますが、関連の資料として展示する予定です。
(学芸員 浅野慎太郎)



「備前焼 ～炎が生みだす窯変の美～」

会期：平成 19 年 4 月 19 日（木）～6 月 10 日（日）

備前焼は釉薬^{うわくすり}を一切使用せず、絵付けもせず、土の形を整えて、ただ焼くのみである。そして炎と土と人の手により、様々な変化をとげ、陶器としての新しい生を受ける。そこにあらわれる窯変は、自然と陶工とが生みだした美の姿であり、その景色には華麗な装飾がないがゆえに、はかりしれない美を追究できる…



広報ポスター

作品は
緋襷大徳利^{ひすくおほとく}
(桃山時代)

本展では、一千年の歴史の中で六古窯の一つに数えられるまでになっ

たこの技と美を館所蔵の優品と人間国宝5名の作品を合わせ約 100 点の展示作品からたどり、紹介しました。期間中 9,063 名もの方々に御観覧いただき、大変な盛会となりました。

展示の4つのテーマと展示構成

「第一部 備前焼の歴史」では、平安時代からの須恵器を源流とした備前焼の始まり、初期の形を紹介しました。まだまだ本来の焼き色は出ず、焼き締め陶の灰色の陶器として全国へ運ばれていました。その途中で沈没した瀬戸内海の水の子岩からの海揚げの作品が備前の頑丈さ、力強さを今に伝えてくれます。

「第二部 日用の雑器」では、投げても割れない播鉢、水を長期にわたり保存できる甕^{かめ}など日常生活に欠かせない器として重宝され、その名を全国に知られた姿を紹介しました。本来の赤茶褐色の色をまとい、形や大きさの個性、装飾的な紋様をあらわし始め、焼け色の中の見事な窯変は、単なる陶器から備前焼という焼き物に変化した焼けの魅力を伝えています。

「第三部 茶道具に見る美」では、茶陶の世界を御覧いただきました。見事な上手物の徳利や異彩を放つ大皿、肩衝茶入の名品など、当時の陶工たちの自信に満ちあふれた作風は、力強さと美しさが融合し

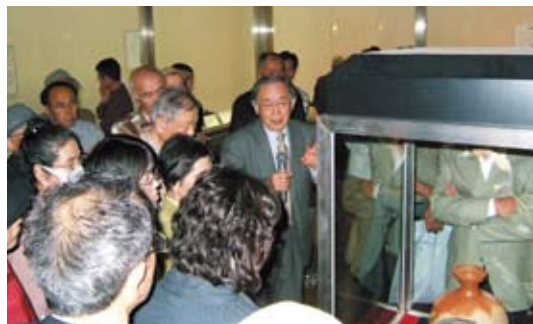
た備前を表現していました。

「第四部 今日の備前焼」では、現代にその伝統を継承させていった人間国宝の作品、名工・金重陶陽、文人・藤原啓、ろくろの名人・山本陶秀、壺の藤原雄、そして黒備前という新たな道に挑まれておられる伊勢崎淳氏を紹介しました。備前の革新的な変化は、先生方のように伝統を継承しつつ、終わることのない創造により生みだされたものです。技の巧みさとともに、備前焼のさらなる可能性に驚嘆されたお客様も多く、現代の美を堪能されました。



伊勢崎淳作 角花生

関連事業紹介—匠の技を伝える—



本展では、学芸員による四回の展示解説、ボランティアガイドによる展示解説に加え、特別解説として、備前焼重要無形文化財保持者（人間国宝）である伊勢崎淳先生に解説をいただきました。会期中に二回実施しましたが、当日は特に来館者も多く、詳細な説明に熱心に耳を傾けておられました。

また、岡山県備前焼陶友会に協力をいただき、陶友会会員で日本工芸会正会員、伝統工芸士でもある森 陶山氏に轆轤^{ろくろ}技法の実演をいただきました。土練りの準備から仕上げまで、一つの土の塊が、まる



で命を吹き込まれたかのように徳利になり、花入になり、壺になり、生まれ変わっていく匠の技を見せていただきました。

(学芸員 鈴木力郎)

「おかやま発掘最前線 ここまでわかった古代吉備」

会期：平成 19 年 7 月 20 日（金）～ 9 月 9 日（日）

本展では、岡山県内の発掘調査で発見された遺跡や出土品のうち、近年とくに注目された成果を紹介しました。

岡山県は全国有数の遺跡の宝庫で、現在も県内各地で発掘調査が行われています。よく新聞やTVで新たな発見や成果を知ることがありますが、実際に出土品を間近に見る機会はありません。今回は、約 40 遺跡からの出土品約 400 点を展示し、来館者を古代吉備の世界へ御招待しました。



広報ポスター

キャッチコピーは「わたしは待っていた。あなたと出会う日を…」。
メインキャラクターは土井遺跡の「盾持ち人」。バックは津島遺跡の土層断面。
大地に刻まれた時と、人々の想いをイメージしてデザインしました。

古代ロマンをそそる出土品の力

今回の展示品の主役は、集落跡や古墳から出土した土器や石器、金属器などです。国宝や重要文化財、美術品のようなものはありません。しかし、私たちの祖先が実際に使い、遺した道具たちは生気に満ちており、実物と対面することで、そのオーラを感じるとともに、それぞれの時代に思いを馳せていただけたと思います。

印象深かったのは、子ども向けに企画した「はくぶつかんクイズラリー」で、真剣な表情で展示品を観察する子どもたちの姿です。実物から歴史や文化を学ぶことの大切さと博物館の役割の大きさを教えてくれました。



大盛況！さまざまな関連事業

本展では関連事業にも力を入れました。特に、特別講座「ここまでわかった！吉備の三大巨墳」では、吉備文化を代表する古墳について、第一線の研究者から最新の研究成果を報告していただきました。第 1 回「造山古墳」については岡山大学教授新納泉氏、第 2 回「作山古墳」については総社市教育委員会の平井典子氏、第 3 回「両宮山古墳」については赤磐市教育委員会の宇垣匡雅氏に御講義いただき、参加者は 600 名にものぼりました。吉備文化への関心の高さを改めて感じる講座となりました。

また、夏休みの家族向け体験事業「古代の勾玉をつくってみよう！」では、親子で勾玉をつくって比べたり、本物の勾玉に触れたり、記念写真を撮ったりと楽しい一日でした。

さらに、新たな試みとして、県内にある考古資料の展示施設を紹介する「情報コーナー」を設けました。これも大好評で、今後、それぞれの施設の活性化やお互いの連携につながるよう期待したいと思います。



考古学ファンが集った特別講座（第 2 回 作山古墳）

文化ブランドと博物館の役割

本展は、計 5,254 名もの方々に御観覧いただき、大変な盛会となりました。

最近、「地域ブランド」という言葉を新聞などでよく見かけます。岡山にも桃・ジーンズ・備前焼など、岡山ブランドがあります。本館では、これに「古代吉備」という文化ブランドが加わるよう、今後も情報発信を続け、岡山を元気にする博物館活動を展開していきたいと思っています。（学芸員 佐藤寛介）

特別陳列「日本刀－須賀宏文名刀コレクション－」から

本館では、岡山市出身の医師 須賀宏文氏（故人）が収集された刀剣資料が岡山県に寄附されたのを記念して、特別陳列「日本刀－須賀宏文名刀コレクション－」を開催しました。今回は、その代表ともいえる太刀銘長光（国指定重要文化財）を御紹介します。

長光は、備前刀長船派を代表する名工です。長船派は鎌倉時代中期に長光によって確立され、各時代を通じて名工を輩出し、備前刀の最大流派として江戸時代まで続きます。

本作は、長光の力強く派手な作風を示す太刀です。特にその特長が表れているのが刃文で、高さの揃った華やかな丁子刃文を主体に、切っ先の付近は小模様になっています。また、刃文全体が明るく冴えているのも名工ならではの出来映えです。長光の典型的かつ最上位の作風を示す傑作で、備前刀の第一級資料といえます。（学芸員 佐藤寛介）



太刀 銘 長光

心を届ける売子さん－備中売薬の調査から－

備中売薬は、現在の総社市を中心とした備中地方南部で、江戸時代中期頃から始まった薬の製造販売のことです。薬は、‘置き薬’^{おきぐすり}といって家庭に配置され、売子^{ばいし}という販売人が各家庭を訪問し、集金と薬の補充を行いました。

売子さんの財産ともいえるものに懸場帳^{かけばちよう}があります。懸場とは、薬を配置する地域のこと、懸場帳は、各家庭に配置した薬の種類、数量の記録で得意先原簿、売薬帳とも言われます。総社市で採集された大正9年の懸場帳には、広島県で配置する際の定宿、訪問ルートが残っています。また、訪問する地域の地図や各家庭の家族構成が記されたものもあります。



懸場帳

高梁市に育った70代の女性から聞き取りした話を御紹介します。何年もその家を訪問していた総社市の売子さんの思い出です。幼い頃に母親を亡くされたその女性は、おばあさんに育てられました。売子さんは家に来ると「あなたのお母さんはなあ…」と幼い女の子に母親の話をしてくれたそうです。「私は、母の話を置き薬の薬屋さんから、いろいろと聞かしてもらいました」とその女性。売子さんは、薬とともに心も届ける存在だったのです。

（学芸員 信江啓子）

教育普及事業の概要

本館においては、近年、教育普及事業について推進を図っています。平成19年度上半期の概要は次のとおりです。

博物館講座

県民一般を対象に、学芸員が実物資料等を用いながら「岡山の歴史と文化」をテーマに行う講座で、本年度も6月～7月初にかけて、火曜・木曜班各60名が受講されました。(内容は下表のとおり)今年度は学芸員以外に、外部講師2名にも御講義いただきました。



① 日本刀の楽しみ方～備前刀を中心に～	学芸員 佐藤 寛介
② 朝鮮通信使と岡山	学芸員 浅野慎太郎
③ 仏のかたちと美	学芸員 中田利枝子
④ 売薬について	学芸員 信江 啓子
⑤ 岡山の近代化遺産 —その事例紹介及び保存と活用—	岡山県教育庁文化財課 主幹 三宅 克広
⑥ 岡山発掘最前線	岡山県古代吉備文化財センター 総括副参事 江見 正己
⑦ 備前焼の細工物	学芸員 鈴木 力郎
⑧ 岡山の弥生時代～米と塩と鉄	副館長 柳瀬 昭彦

学芸員解説

毎月第2・4土曜日の14時から、学芸員が展示内容の解説を行っています。詳しくかつ分かりやすい説明に、今年度も毎回多くの方にお越しいただいています。

館内授業・出前授業

「館内授業」は本館で実際の資料や展示に触れ、「出前授業」は学芸員が学校に出向きます。いずれも学校教育との連携事業として実施し、今年度上半期は前者15校、後者9校で実施しています。

出前授業の様子



館内授業の様子

吉備の国歴史探検ツアー



門田貝塚にて



近水園にて

史跡等の散策と当館の見学を行うバスツアーで、本年度は備前・真庭・美作コースを設けました。5月30日には備前市立西鶴山・東鶴山小学校の6年生が門田貝塚と邑久郷土資料館を、6月29日には真庭市立河内小学校5・6年生が侍屋敷・近水園など足守を見学して当館を訪れました。

各種イベント

5月5日には「歴史体験 よろいと小袖を着てみよう!」を実施しました。よろいに10組、本年度初めての小袖に8組の親子が参加され、実際に着用して本物の持つ質感や迫力などを感じてもらいました。

8月19日には体験講座「古代の勾玉をつくらよう!」を実施しました。24組の親子が参加され、暑い中一生懸命石を切って削って磨いて、オリジナルの勾玉を作成しました。



勾玉づくりの様子

学芸員実習

7月26・27日、学芸員を目指す県内外の学生7名に、学芸員がそれぞれの専門分野に関わる実習を行いました。その後、学生の皆さんは8月中の様々な行事に学生ボランティアとして参加しました。

(主任 正木茂樹)

●●●●● 平成19年度後期の展示予定 ●●●●●

特別陳列	「郷原漆器の製作用具」	会期 平成19年 9月13日(木)～10月14日(日)
特別展	第19回全国生涯学習フェスティバル記念事業・おかやま教育の日協賛事業 「吉備津神社」	会期 平成19年10月19日(金)～11月18日(日)
特別陳列	「津田弘道とその時代」	会期 平成19年11月23日(金)～12月24日(月)
交流展	ミュージアムブリッジ in おかやま・かがわ 「高松松平家の名宝Ⅱ」	会期 平成20年 1月 5日(土)～ 2月 3日(日)
特別展	「朝鮮通信使と岡山」	会期 平成20年 2月 8日(金)～ 3月 9日(日)
春季展	雛人形	会期 平成20年 3月14日(金)～ 4月 6日(日)

ただいま準備中！ 平成19年度特別展『吉備津神社』

<第19回全国生涯学習フェスティバル記念事業>
<おかやま教育の日協賛事業>

岡山市吉備津にある吉備津神社は、大吉備津彦命を主祭神に多くの神々をおまつりしてある吉備国の大氏神と言われる大社です。かつては境内に72もの末社があったと伝えられています。四季折々の美しい自然に囲まれ、古式ゆかしい神事を伝える吉備津神社には、毎日多くの参詣・観光の人々が訪れています。

比翼入母屋造といわれる二連の檜皮葺屋根が特徴的な本殿(国宝)、拝殿(国宝)、その南北を守る二つの随神門(重要文化財)、南北四百メートルにもおよぶ回廊などの荘厳な建造物、また、重要文化財に指定されている勇壮な狛犬、建久四年(1193年)を最古とする数百点にのぼる古文書、さらに上田秋成筆の怪異物語集「雨月物語」で知られる鳴釜神事や矢立神事といった神事など、吉備津神社には実に多くの有形・無形の文化財が今日まで伝えられています。

当館では、平成20年の完成をめざして本殿・拝殿の大改修が施工されているこの吉備津神社を取り上げ、特別展を開催いたします。折りしも今年11月2日から6日まで、岡山県では全国生涯学習フェスティバルが開催されます。全国から多くのお客様を迎えるこの期間をはさんで、吉備津神社の歴史や文化財をはじめ、ゆかりの人物や平成の大改修についても、展示を通じて多くの方々に御紹介したいと思います。(学芸員 中田利枝子)

背景：吉備津神社境内図 元禄年間(1688～1704)の様子



重要文化財 木造獅子狛犬 1対のうち

関連事業

- (1) 記念講演会
講師：岡山理科大学教授 江面嗣人 氏
演題：「文化財の保護とこれからの岡山」
日時：10月21日(日)13:30～15:00
場所：本館講堂(定員120名)
- (2) 三味線餅つきと祝い餅の配布
実演：吉備津餅搗保存会
日時：11月11日(日)13:00～
場所：本館玄関前
- (3) 宮内踊の公演
公演：宮内踊保存会
日時：11月4日(日)①11:00～
②14:00～
場所：本館2階ロビー
- (4) 檜皮屋根葺き替え技術の実演
実演：(社)全国社寺等屋根工事
技術保存会
日時：11月3日(土・祝)
10:00頃～15:00頃(随時)
場所：本館玄関前
- (5) 学芸員による展示解説
日時：10月27日(土)・11月10日(土)
14:00～15:00

岡山県立博物館だより 第68号

発行日/平成19年9月30日

発行者/岡山県立博物館 館長 芦田 和正

〒703-8257 岡山市後楽園1-5

TEL: 086-272-1149 FAX: 086-272-1150

URL <http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/hakubu.htm>



古紙配合率100%、白色度70%の再生紙を使用しています